

令和7年度施設自己評価の結果について

公表：令和 8 年 1 月 21 日

事業所名

こでまり

国から示された「児童発達支援ガイドライン」に基づき、事業所職員が自己評価を実施しました。
 事業所における課題点及び改善すべき点を今一度確認し、今後の当会及び当事業所の運営に活かしていきます。
 今後ともご家族様と共によりよい事業所を目指していきたく思いますので、ご理解・ご協力いただきますよう、お願いいたします。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切である	6	0		
	②	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切である	5	1	利用定員に適した職員の配置をしている。今年度はいないが、看護師を配置し医ケアの子の対応も行っている。	
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされている	5	1	ホワイトボードに写真を貼り、スケジュールや活動を視覚的に伝えている。	こども園と併設しフロアが繋がっている為、開かれた空間になっている。子どもによっては開かれた空間が生活の中で分かりづらいこともあるので、個々で対応し声を掛けていく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているまた、こども達の活動に合わせた空間となっている	6	0		
	⑤	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっている	5	1	隣の放デイのフロアを子どもがクールダウンできる場所として活用している。	
業務改善	⑥	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0		
	⑦	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている	6	0	毎年利用者満足度調査を実施し、保護者の意向を把握し業務改善に繋がっている。	
	⑧	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている	6	0		
	⑨	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	0	実施指導、法人の内部監査を行っている。	
	⑩	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されている	6	0		
	⑪	適切に支援プログラムが作成、公表されている	6	0		
	⑫	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	定期的な面談の中でアセスメントを行い、計画書の作成をしている。	
	⑬	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われている	6	0		
	⑭	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われている	6	0		

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している	6	0		子どもの適応行動の状況の確認の為、アセスメントツールの見直しの検討していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	3		リーダーが中心となり立案しているが他職員と話し合う時間が作れない時があるので、時間の確保ができるようにしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	併設したこども園との連携しプログラムを考え、内容が固定化しないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われている	5	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている	6	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	毎日、支援終了後振り返りを行い、子どもの様子や支援方法の確認をしている。	退勤時間に違いがあり、全職員が振り返りに参加するのは難しい状況があるので、共有方法の検討は今後も必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0		
	23	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている	6	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画している	6	0	主任、児発管が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている	6	0	必要に応じて受診やリハビリに同行し情報共有をしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているまた、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	移行に関して保護者と相談しながら支援を進めている。引継ぎの際には、引継書を作成し園を訪問し直接情報共有をしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	サポートかけはしシートを作成し引継ぎを行っている。	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けている	5	1	療育支援事業でPTが来所しアドバイスをもらい、支援に活かしている。	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会がある	6	0	併設しているこども園の園児と日常の中で交流をしている。	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	迎えの際、子どもの様子伝え合い共通理解に繋げている。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っている	6	0		

保護者への説明責任等	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けている	6	0		
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0		
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている	6	0	迎えの際、保護者と話す時間を作っている。状況に応じて面談を実施し相談を受けている。	
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているまた、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしている	4	2	保育参加を通して直接支援の様子を見てもらっている。年2回懇談会を実施し保護者同士の交流の場を作っている。	きょうだい支援はできていないので、内容や取り組み方法を今後検討していく。
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0		
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信している	6	0	毎月のおたよりの発行、ブログの更新を通じて活動内容や予定を知らせている。	
	39	個人情報の取扱いに十分留意している	6	0	個人情報の書物は鍵のかかる書庫で管理している。	
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0		
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている	5	1	地域のさつま芋掘りに参加している。	積極的に見学対応等、地域住民の知る機会を確保していく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0		
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	併設されたこども園と合同で毎月防災訓練を実施している。	
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	契約時や定期的な面談の時に保護者に確認し職員に周知し対応している。	
	45	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0		
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われている	6	0		
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	安全計画に基づく取組みは実施している。	安全計画の取組内容のより良い周知方法を検討していく。
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている	6	0	職員会議の中でヒヤリハットについて共有する時間を設けている。	
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	職員会議の中で虐待研修を実施することや虐待セルフチェックを行っている。	
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0		

